

第一回 安全・安心に関するシンクタンク設立準備検討会 議事要旨

1. 日時

令和 4 年 11 月 29 日 (火) 10:00~11:00

2. 場所

オンライン

3. 出席者

(有識者)

上山 隆大	総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員 (座長)
青木 節子	慶應義塾大学大学院法務研究科教授
金子 将史	政策シンクタンク P H P 総研代表・研究主幹
白石 隆	政策研究大学院大学名誉教授
角南 篤	笹川平和財団理事長
西山 淳一	未来工学研究所研究参与
橋本 和仁	内閣官房科学技術顧問、科学技術振興機構理事長
松本 洋一郎	外務省科学技術顧問、東京大学名誉教授

(説明者)

風木 淳	政策研究大学院大学政策研究院参与
------	------------------

(政府側)

松尾 泰樹	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長
奈須野 太	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官
覺道 崇文	内閣府科学技術・イノベーション推進事務局審議官

4. 議事概要

(1) シンクタンク設立準備検討会の目的について

【資料 1】を用いて、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 覺道審議官から、本検討会の開催趣旨についての説明を行った。

(2) 政策研究大学院大学による令和 3、4 年度の試行事業について

【資料 2-1】を用いて、政策研究大学院大学 白石名誉教授及び風木参与から、内閣府が政策研究大学院大学に委託しているシンクタンク機能に関する試行事業についての発表を行った。

(3) 科学技術振興機構 先端科学技術委員会について

【資料 2-2】を用いて、科学技術振興機構 橋本理事長から、経済安全保障重要技術育成プログラムに対する科学技術振興機構 先端科学技術委員会のこれまでの取組及びそれを踏まえたシンクタンク構想についての発表を行った。

(4) 未来工学研究所のシンクタンクに関する検討状況について

【資料 2-3】を用いて、未来工学研究所 西山研究参与から、安全保障に関するシンクタンク機能実現の進め方についての発表を行った。

(5) その他

それぞれの発表を踏まえて、意見交換を行った。

本検討会における主な意見は次のとおり。

- シンクタンクの目的・ミッションは「シーズとニーズのマッチング」であるが、そのためにはニーズをもつ政府側とシンクタンクの運営側で連携が必要。トップクラスの技術者と相談して問題意識が妥当なのか、技術的にフィージブルなのか、どのような人材が必要なのかを見極めていくことがシンクタンクのミッションであると考えられる。

調査研究自体は試行事業の中でネットワーク型の体制でかなりのことができると確信したが、一方で、海外のシンクタンクの事例を見る限り、やはりスター的な研究者

を複数名中に抱えていて、まさにその人たちがハブとなって機能しているので、我が国のシンクタンクにおいてもそういったコアな人材を確保すべきと考える。

- シンクタンクは、トップレベルの研究者から最先端・最新の科学技術的知見を集めるとともに、国際的な技術動向、経済動向の優劣、各国比較や地政学的な情報の変化等も含めた総合的・俯瞰的な技術体系に関する調査分析を行い、提言としてまとめることが必要。
- 省庁の枠にとらわれない幅広い議論を実施するためには、関係省庁や研究機関からの出向者・兼務者だけでなく、経験有識者も交えた混成チームを構築することが必要。また、安全保障科学評価委員会（SSB：Security Science Board）を設置して、外交・政治・産業などの総合的な見地から、シンクタンクの政策提言や態勢等に関する結果を評価し、社会実装につなげるべきである。
- シンクタンク対象技術の外縁をどこにするのかが重要であり、防衛や軍事分野を含むのかを議論していきたい。総合安全保障の観点からこのシンクタンクには様々な期待が寄せられているが、肝心の防衛や軍事分野も含むシンクタンクにしたいと考えている。各省庁のニーズを統合したりまとめたりできるようなカスタマーサイドの仕組みも政府の中に事務局レベルでしっかり作って、シンクタンクの提言を政策に活かせるようにしてほしい。
- 第1案を作る関係省庁に最先端の技術的知見が伝えられているのかが疑問。一流の科学技術研究者が、リスト化された常設顧問団のような形で、政府に対して率直かつ気軽に助言を与えられる体制が恒常的に必要。
- シンクタンクを立ち上げることと並行して、官と学と民での経験があり、セキュリティクリアランスを保有しており、シンクタンクと政府と政治を繋ぐことができるような人材を育てていくとともに、そのようなポストを用意することが重要。
- 国際的なネットワーク構造の中で知見を集約し、人材を育てていき、各省庁の障壁を取り除いて国全体の政策に結び付けていくことが重要。アカデミアの研究者レベルの頭脳循環が鎖国傾向にあるのではないかと考えており、もっと人や情報の循環を発展させていくことが重要。
- 有識者の知見を最大限発揮させるためには、関係省庁間での検討・調整に着手する最初の段階から、有識者も交えて議論を行うことが重要。

（ 以 上 ）